愛知東邦大学　シラバス

開講年度(Year)	2020年度	開講期(Semester)	前期
授業科目名(Course name)	国語		
担当者(Instructors)	山本 かほる	配当年次(Dividend year)	2
単位数(Credits)	2	必修・選択(Required / selection)	選択
実務家教員科目(Pro teacher course)			

■授業の目的と概要(Course purpose/outline)

国語科教育において、教師は最も重要な言語環境である。そこで、基礎となる言語事項の知識・技能について再確認するとともに、まとまった文章の書き方や改まった場での話し方、考えを深める話し合い方など、教師に求められる国語力を培い、国語科教育の基盤を形成する。

■授業形態・授業の方法(Class form)

授業形態(Class form)	演習
授業の方法(Class method)	言語事項について、文法や語彙、漢字などの基本に立ち返り、その知識をもとに、若者ことばや普段自分が使っている言葉を見直して、正しい日本語について考える。また、学習指導要領をはじめとした様々な観点から国語力の具体に迫り、どうしたら国語力が身につくのか考える。言語活動については、ディベートやディスカッション、文章の読解、小論文の作成などの活動を通して、自分の「読む・書く・聞く・話す」力を見つめ直し、教師として必要な国語力を身につける。
当該科目と実務との関係(Relationship between cource and practice)	教育委員会で国語教育に関する施策の立案・推進や教育課程モデル案の編成を行ってきた実務経験、小学校で国語教育に関する研究・実践を行ってきた実務経験を活かし、学校現場で活かすことのできる国語科の基本的知識や授業実践の方法について学ぶことができるようにする。

■各回のテーマとその内容(Each theme and its contents)

回数(Num)	テーマ(Theme)	内容(Contents)	メディア区分(Media)
第1回	オリエンテーション 国語力って何？	本授業の内容や目的、進め方を知る。国語力はなぜ必要か、その具体は何かについて考え、学習意欲を喚起する。	□
第2回	どうしたら国語力が身につくの？ 「ことばのコラム」	前回学習内容を受けて具体的にどうしたら国語力が身につくのか考え、各々が実践できそうな方法を見つける。コラムを読んで身近な言語事象について考える。	□
第3回	言語事項 （１）文法　①主語と述語～「離れすぎ」「ねじれ」をなくそう	主語と述語が離れすぎていたりねじれていたりする文を書き直すことで、主語と述語の役割を知り、適切に表現しようとする態度を養う。	□
第4回	言語事項 （１）文法　②修飾語～「長すぎ」「離れすぎ」をなくそう ③助詞　～間違いやすい助詞の使い方	長すぎたり、被修飾語と離れすぎていたりする修飾語や、誤った使い方の助詞を見直すことで、適切に表現しようとする態度を養う。	□
第5回	言語事項 （２）漢字～１００回書いても身につかないのはなぜ？	漢字の三要素「形・音・義」について知り、漢字指導を語彙指導の観点から見直して、日常生活で漢字を使いこなすにはどうしたらよいか考える。	□
第6回	言語事項 （３）書写 ～書写と習字はどう違う？	国語科の授業における書写指導の意義を考えるとともに、書写が得意でなくても指導できる方法を知る。	□
第7回	言語事項 （４）語彙～どうすれば語彙が増えるの？ 「ことばのコラム」	語彙が増えるメカニズムを知り、語彙を増やすにはどうしたらいいか考える。コラムを読んで身近な言語事象について考える。	□
第8回	言語事項 （５）コロケーション～この文、どこかおかしいけれど？ 「ことばのコラム」	コロケーションの概念を知り、問題演習を通して適切に表現しようとする態度を養う。コラムを読んで身近な言語事象について考える。	□
第9回	言語事項 （６）話し言葉と書き言葉～ごっちゃになっていませんか？	区別が曖昧になりつつある話し言葉と書き言葉を見直し、必要な場面では正しい書き言葉を使えるようにする。	□

第10回	言語事項 （７）敬語　～社会人として恥ずかしくないように	教師として、社会人として必要な敬語の使い方について再確認し、実生活での場面を設定して練習する。	□
第11回	言語活動 （1）聞く　～本当に聞けていますか？	「聞く力」とは何か、正確・適切に聞き取るためには何が必要なのか、聞き取り問題に取り組みながら考える。	□
第12回	言語活動 （２）読む　～読解力とは何か？	PISA型読解力など、異なる種類の読解力が求められる3種類の問題を解いてみて、読解力とは何かを話し合う。	□
第13回	言語活動 （３）話す～音声言語の特長を活かして、効果的に話そう	音声言語と文字言語の違いを踏まえて相手に伝わるスピーチのしかたを考え、メモを作って実際にスピーチしてみる。また、「話し合う」とはどういうことか、どうなれば「話し合えた」ことになるのかを考える。	□
第14回	言語活動 （４）書く	新聞の投書欄を読んで考えたことを、これまでの学習を活かして意見文としてまとめる。本授業で学んだ言語事項の知識を使って推敲し、正しい日本語で書けているか振り返る。	□
第15回	学習のまとめと振り返り	本授業で学んだことを振り返ってまとめる。	□

■授業時間外学習（予習・復習）の内容(Preparation/review details)

前もって配布する資料を読んで予習（2時間程度）。復習問題や講義の感想（課題用紙は毎回配布）のまとめによる復習（2時間程度）。

■課題とフィードバックの方法(Assignments/feedback)

復習問題は、解説とともに解答例を示します。毎回の授業の感想、個々で書いた意見文・小論文は添削・採点の上で返却するとともに、次回授業の際フィードバックし、全体で共有する機会をもちます。

■授業の到達目標と評価基準(Course goals)

区分(Division)	DP区分(DP division)	内容(DP contents)
知識・技能	◆ 2019子ども発達DP1	国語力の基礎となる言語事項の知識・技能について再確認し、ワークシートや講義記録に正しく記述することができたか。
思考力・判断力・表現力	◇ 2019子ども発達DP2	授業で学んだスキルを活かして、スピーチや話し合い、意見文・小論文、「ことばのコラム」の感想などで、自分なりの考えをもち、それを論理的に表現できたか。
主体性	◇ 2019子ども発達DP3	ことばについて感心をもち、身近なことばやふだん使っていることばを言語事項の観点から見直して正しい日本語を使おうという意欲をもったことが、講義記録や感想に表現されているか。

■成績評価(Evaluation method)

筆記試験(Written exam)	実技試験(Practical exam)	レポート試験(Report exam)	授業内試験 (in-class exam)	その他(Other)
			50%	50%

授業内試験等(具体的内容)(Specific contents)

授業で出題された練習問題の理解度や、授業で作成した意見文などの成果物の完成度。授業の感想などから伺われる意欲・関心。

■テキスト(Textbooks)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1	必要に応じて資料を配布する	
2		
3		
4		
5		

■参考図書(references books)

No.(No.)	テキスト名など(Text name)	ISBN(ISBN)
1		

2		
3		
4		
5		